



エルム 第4号  
 発行 / 医療法人北楡会  
 札幌北楡病院  
 編集 / 広報委員会  
 責任者 / 久木田和丘  
 発行 /  
 平成12年1月1日

### 小児科の構想

昨年は呼吸器科・循環器科を新たに標榜いたしました。今年、小児科を新設する構想が進んでいます。現在北海道大学医学部と最終協議中で春には開設の予定となっています。これにより10科体制となります。

### 職員は院内禁煙

喫煙による健康への影響は、喫煙者のみならず非喫煙者へも被害がおよんでいます。当院では、医療に携わる者として自らが実践するべく準備期間を経て本年1月1日を期して病院内の禁煙を実施いたしました。



### 開院15周年となりました

当院は、昭和60年1月開院から、今年の1月16日で満15周年を迎えました。

その間、2度の増改築を行い規模の拡大と診療機能の充実を図ってきました。来年は21世紀を迎えますが、“高度先進医療を日常診療に生かし”急性期医療を担う病院”として患者さんにより医療を提供できるよう努力を続けます。

- 8年3月 第3期増改築（西棟）竣工
- 4月 療養情報センタースタート
- 10年10月 医療機能評価一般病院B認定

### 札幌北楡病院15年の歩み

昭和60年1月

病院開設 (病床数100床)

その日 入院数 1名

外来数 25名

昭和62年11月

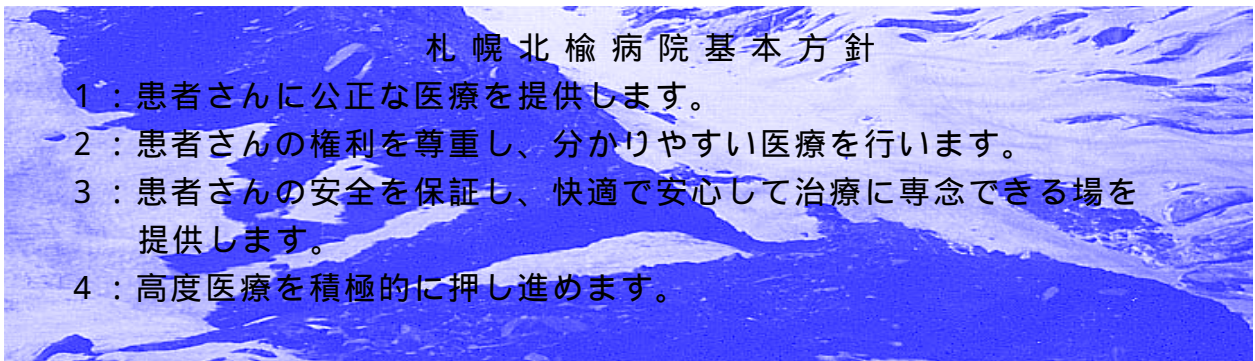
第二期増改築竣工 (病床数222床)

平成5年5月 6時夕食実施

6年7月 医療法人北楡会 発足

### 指標で開院当時と現在を比べました

	開院当時	現在
病院の面積 単位m <sup>2</sup>	5.015	15.986
病床数	100床	222床
診療科	4科	10科
人工透析装置	10台	84台
一日の患者数		
入院	74人	215人
外来	64人	341人
従業員の数	72人	380人
うち医師	5人	34人
うち看護部	45人	233人



### 札幌北楡病院基本方針

- 1：患者さんに公正な医療を提供します。
- 2：患者さんの権利を尊重し、分かりやすい医療を行います。
- 3：患者さんの安全を保証し、快適で安心して治療に専念できる場を提供します。
- 4：高度医療を積極的に押し進めます。

## 病院紹介シリーズー 4 外 来

当院の目標である「高度先進医療を日常の診療に役立てる」一番最初の窓口が外来です。急性期医療及び専門医療の充実を図り、診療科目は10科となっています。

東棟外来では外科、整形外科、内科の領域で病気を診ております。特に内科は一般内科のほかに専門的に血液内科、呼吸器科、循環器科、消化器科などに分かれて診察が行われています。

あまり他の病院では聞かれない診療科もあります。タバコを止めたくても止められない人への禁煙外来や、いびきで眠れないとご家族から苦情を言われて困った経験があったり、睡眠中に、呼吸が止まってしまうことがある方の診断治療を行うスリープ外来等です。

西棟外来では歯科、眼科の診療を行っています。これらの診療科目は一人一人の患者さんの病気を総合的に治療する上で大変役に立っています。又病気を持って身動きが大変な状態の患者さんに少しでも安心して早く治療が開始でき、苦痛が少なく済むように、同じ病院内で診療できるようにと考えられています。

病院の診察状況を表した言葉に3時間待って3分診療という言葉があり、報道されたことがあります。当院では待ち時間が少ないように、診療前の検査を早めに行うなどいろいろな方法を試みて、出来るだけ患者さんをお待たせしないよう開院時から取り組んでおります。

どこの病院においても外来の役割は診療を行うことだけでなく、病院として正面玄関に入ってくる全ての人達を温かく迎え安心をご提供できることが必要だと考えます。

どのような病気で病院を訪れるとしても、不安でいっぱい患者さんやご家族の憂鬱な気持ちを少しでも安らいだ気持ちで待つことが出来るよう職員一人一人が細やかな心配りが出来るよう努力しております。

診療を受けられたり待っている間に、不安な

こと・訊いてみたいと思われることがあるでしょう。そんな時近くの看護婦に声をかけて何時でも「看護よろず相談」をご利用下さい。私たち外来職員は皆様が安心して時間を過ごせ



外来処置室

## 道聴塗説

自動車運転中に、追いこしたり追いこされたりしたときのドライバーの心理を統計的にまとめた資料を見た。それによると追い越した方の車は十分な車間距離をとった上で元の車線に戻ったと思っている人が多いが、追い越された方の車の視点で体験すると十分な車間距離をとらずに入ってきた、すなわち割り込まれたと感じる人が多いという結果になっていた。

同じ人間でも、おかれた状況・立場・視点が異なるだけで大分感じ方が異なるようである。単に気分的な事だけで不快を感じるだけならそのときだけの問題で終わってしまうが、この感覚の違いが元で事故に発展してしまうとしたら、車を運転する者として自分の運転動作をもう一度見つめ直す必要があると感じる。

医療の現場においては、「医師と患者さん」とか「看護婦と患者さん」とか人間同士の対話の世界が基本になっている。様々な世界で生活している人々がひとたび病気になると「患者さん」という一つのグ

るように、挨拶や声かけなどを気持ち良くと心がけております。

現在の診療日は右の表の通りとなっておりますが、何かありましたら、看護婦だけでなく当院職員の誰にでも気軽にご質問・ご相談下さい。

皆様に最善なお返事ができるよう、必要な場所・職種に連絡いたします。

外来婦長 若松日都美

		午 前	午 後
外 科	平 日	9：00～11：30	13：30～16：00
	土曜日	9：00～11：30	
内 科	平 日	9：00～11：30	13：30～16：00
	土曜日	9：00～11：30	
消化器科	平 日	9：00～11：30	13：30～16：00
呼吸器科	平 日	9：00～11：30	
循環器科	月水木	9：00～11：30	
整形外科	平 日	9：00～11：30	
リハビリテーション科	平 日	9：00～午後へ	午前～16：30
禁煙外来	平 日	予 約 制	
スリープ外来	火 木	9：00～11：30	
眼 科	水木金		13：00～17：00
歯 科	火水金		13：00～17：00

## 外来診療時間表

ループに入る。そして「患者さん」にとって病院は、普段の自分の生活環境とはかけ離れた世界である。

方や医療人にとって病院は日常の労働の場であり社会である。「病氣」を直すという行為は患者さんにとって初めての体験であるのだが、医療人にとっては毎日の出来事なのである。

インフォームドコンセントという言葉が聞かれてひさしい。直訳すれば「知識に対する同意」であろうか。何故こうするのか、この医療行為によってどのような危険があるのか、十分な説明とそれによるしっかりした理解、同意。当然、どの医療機関でも実践していることになっている。はたしてそうであろうか。

説明で、この検査による危険度は1000人に一人です。と説明したとき、医療人は「きっとあなたは999人ですよ。」と安全性の高さを説いたつもりでも、患者さんにとっては「私がお一人になるかもしれない」と受け取る場合もある。しかもこの言い方ならばはじめから目の前の個人である患者さん

を1000人というグループの一員と考えてしまっている。個人である患者さんにとっては、そのひとりになってしまった場合、こんな処置をして最善を尽くします。とか「この検査をしない場合は自分の病気のどの部分について分からないために、治療をするうえでどういった不利になってしまうのか」を知りたいのかもしれない。

院内の道順を伝える。こんな些細な事でもトラブルが起きることがある。「わたしはそう言いました」と病院の職員が言い訳をしている。言葉を発したかもしれないが相手が理解していなかったのは事実である。言えばそれで仕事が終わったのではなく、理解していただくのが仕事だということをおぼえていない。

医療人というプロのドライバーは追い越しをかけるとき追い越した車に笑われるくらい充分すぎる車間距離をとることを意識する必要がある。自分から追い越しをかけるより「どうぞ追い越してください」と左により、追い越しをかけてきた車に道を譲るつもりでちょうどよいのかもしれない。

# 療養情報センターニュース

## はじめに

療養情報センターは患者さんが安心して療養生活を送っていただけるよう平成8年4月に設置されました。今年から広報誌「エルム」の紙面を利用してさまざまな情報をお伝えしていこうと思っております。

初めての今回は、療養情報センターの仕事の紹介と来年4月よりスタートします「介護保険」についてお知らせいたします。

療養情報センターはセンター長以下、腎臓移植コーディネーター、骨髄移植コーディネーター、医療ソーシャルワーカー、メディカルパートナーで構成されています。

## 業務内容としましては

- (1) 患者さんやそのご家族が安心して療養生活を送っていただけるよう心配なこと、不安な事を一緒に解決させていただく。
- (2) 腎臓・骨髄移植についての説明、調整をおこなう。
- (3) 病院全体の入退院をコントロールする。の三点が中心になっています。

## < 骨髄移植コーディネーター >

最近では骨髄移植という言い方が誤解を招きやすいと言うので、造血幹細胞移植と呼ばれています。さて骨髄移植は大きく自家移植と同種移植に分けられます。自分の造血幹細胞を移植するのが自家移植、自分以外の造血幹細胞を移植するのが同種移植です。同種移植は又、兄弟姉妹などから提供を受ける血縁者間移植と他人からの非血縁者間移植(いわゆる骨髄バンクによる)に分かれます。

移植を受ける患者さんやそのご家族が移植に専念できるようにお手伝いいたします。そのほか、骨髄バンクから依頼されてドナー(造血幹細胞を提供して下さる方のこと)となられる方の検査や実際の採取について院内外との連絡・

調整をすることも担当しています。時には骨髄液を受け取りに採取病院に出かけることもあります。

## < 腎移植コーディネーター >

仕事には大きく次の4つに分けられます。

- 1) 移植が必要な方や医療関係者に対して移植医療の説明をする。
  - 2) 移植を希望する方の登録のお手伝いや、手術前後の生活面や精神面での相談をうける。
  - 3) 生体腎移植の腎提供者への移植についての説明をおこなう。
  - 4) 移植を受ける側と医療スタッフ(医師・看護婦・薬剤師)側との間にたち連絡をする。
- 腎不全になった方の治療法の一つとして腎臓の移植がありますが、どこでどのようにしたらこれらの情報が得られるのかお悩みの方も多と思います。これらの最新の情報を提供し、お応えする仕事です。

## < M S W >

「MSW」は医療ソーシャルワーカーの英語の頭文字をあてたものです。当院にはこの「MSW」が3名おります。

病気に対する不安、医療費の支払いの心配、生活費の心配、退院後の生活への不安、福祉サービスの手続きの仕方、また誰に相談して良いかわからないこと等、これらの問題を解決するために患者さんやご家族と一緒に考えさせていただいております。

どのような小さなことでもかまいませんので、何かお困りのことがございましたら是非お気軽に声をかけてください。

## < メディカルパートナー >

私達メディカルパートナーの業務は主にナースステーションでの窓口業務です。お見舞いに来られた方への病棟のご案内、患者さんやご家族の方から依頼された文書の受付処理、各部署と病棟または患者さんとのパイプ役としての電





話の対応、入退院の準備などをしております。事務的なことはもちろんですが、医師をはじめ看護婦、助手の方たちが少しでも働きやすい環境をつくれるよう、また何かあったときに患者さんからいつでも声をかけていただけるよう、普段からコミュニケーションをとるよう努めております。

これらは患者さんの立場に立った医療の考え方から生まれた業務で、新しいためカタカナの名前が多くなっています。各職員一同みなさまのお役に立てるよう努力して参ります。どうぞお気軽に声をかけてくださいますようお願い申し上げます。

## 相談風景

### \* 介護保険ってどんな制度？

続いて今年4月から始まります「介護保険」について簡単にまとめてみました。すでに昨年の10月から要介護認定の申請が始まっております。

わが国では本格的な高齢化社会の到来を迎えたことにより、介護が必要な高齢者も急速に増えているのが現状です。またそれと平行して介護する方の高齢化、働く女性の増加等により家族だけで介護することは困難になっています。

そこで、こうした介護を社会全体で支えよう

という考え方から「介護保険制度」が生まれたのです。

#### < 概要 >

制度の開始 平成12年4月から  
 運営の主体 市町村・東京23区  
 利用料の負担

介護保険からサービスを受けたときは、原則としてかかった費用の割を負担します・また、施設に入った場合には、食事も負担します。

加入する方	第一被保険者 65歳以上の方	第二被保険者 40～64歳までの医療保険に加入されている方
サービスが利用できる方	寝たきり、痴呆等で常に介護を必要とする状態の方（要介護の状態）	初老期痴呆、脳血管疾患等老化が原因とされる15種類（表-1参照）の病気により要介護状態や要支援状態となった方
保険料の支払い	原則として老齢・退職者年金からの天引き	加入している医療保険の保険料に上乗せして一括して納める

一割の負担額が高い場合は負担分の上限を設けます。所得に応じ負担上限を低めに設定し、食費もこれに準じます。

このような概要でスタートします。今後は具体的な手続き方法、保険料についてもお伝えしたいと思っております。尚、ご質問等ございましたら療養情報センターまでお気軽に声をかけて下さい。

#### 表-1

\* 老化が原因とされる15種類の病気  
・筋萎縮性側索硬化症・後縦靭帯骨化症・骨折を伴う骨粗鬆症・シャイ・ドレーガー症候群・初老期における痴呆・脊髄小脳変性症・脊柱管狭窄症・糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症・脳血管疾患・パーキンソン病・閉塞性動脈硬化症・慢性関節リウマチ・慢性閉塞性肺疾患・両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性股関節症

療養情報センター 岩田和江

医療法人北楡会 札幌北楡病院

診療科目：外科・内科・消化器科  
呼吸器科・循環器科・整形外科  
眼科・歯科・麻酔科・放射線科

住所：〒003-0006

札幌市白石区東札幌6条6丁目  
5番1号

TEL：011-865-01111

交通：地下鉄白石駅5番出口

より徒歩5分

## お答えします

### 西棟玄関に駐車禁止の看板を

玄関の前に大型車が長時間駐車して、出入りの障害になっていることがあります。特に車椅子の方が苦労しているようです。

駐車禁止の看板を立ててください。

透析通院患者さんからの投書  
荷物の搬入入り口を変更しました  
薬品や診療材料の納入と飲料水自動販売機の業者が定期的に西棟玄関を利用していました。すべての業者に別の搬入口を指示しました。  
駐車禁止の看板も設置しましたが、西棟と東棟の間の道路は玄関前以外にも不法駐車が絶えないため警察や一般通行者の苦情が寄せられます。病院利用者は、駐車場をご利用願います。

### 看護婦はナースキャップを

だれもナースキャップを着用していないのはなぜですか？ユニフォームも統一されていないので、どの人が看護婦かどうかわかりません。

入院患者さんからの投書  
ナースキャップは廃止しました。  
ナースキャップは看護婦の象徴とされてきましたが、当院では「患者さんに対し危険性がある」「動きの激しい業務にそぐわない」「落ち易いため不潔となる」といった理由から数年前に廃止しています。

また、ユニフォームは白一色では無味乾燥であり、色のある生活が患者さんに潤いがあるのではと考えました。

なお、当院では全職員が名札を着用して職種・姓名を明らかにしています。

このコーナーでは、投書箱、入院患者さんからのアンケート等の要望・苦情・質問にお答えいたします。ご意見・ご要望等は、院内に設置しています投書箱あるいは直接メディカルパートナーなど職員にお伝えください。

編集後記：あけましておめでとうございます。壮大な宇宙のいとなみからすれば人間が勝手に決めた区切りである西暦2000年も、ほんの些細なできごとなのかもしれません。それでもいつもとは違った特別な気分のお正月を迎えました。お気づきのことと思いますが「エルム」の内容が大きく変わり、情報誌として充実した構成にいたしました。紙面は皆様のご意見ご希望で支えられております。是非感想などお聞かせください。本年もよろしく願い申し上げます。濱田